

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471300214		
法人名	社会福祉法人 若葉		
事業所名	高齢者グループホーム「潮の香」		
所在地	尾道市因島中庄町油屋新開4804番地		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	令和5年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和5年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染症の影響で地域との交流やご家族との面会の自粛が続いています。これまで楽しみにしていた外食や日帰り旅行、家族交流会などの行事も中止となりホーム内のみの生活になりました。その中で誕生日会や、潮の香カフェを開催していつもより豪華なケーキや和菓子を選んでもらったりして楽しんでいます。また、同建物の他事業所の行事に参加させてもらい、コロナ感染症の対策を取りながら交流を継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高齢者・障害者地域生活総合支援センター「はばたき」の2階に位置している。周辺に耕作地や山があり自然が感じられ、近くの小学校から子どもの声が聞こえる。法人は高齢者・障がい者を総合的にケアし、「地域社会で普通の生活をする事」を目標としており、地域連携・医療連携ができて安心して生活できる場になっている。職員は利用者・家族の要望を把握して、一人ひとりに合わせた介護について話し合い、統一した介護をしようとしている。職員の自己決定を促す声掛けにより、利用者は心身共に機能維持ができ、生き生きとした表情で過ごしている。職員が中心になって行う壁画や作品作りも利用者の視覚や指先機能の刺激となっている。広いテラスは避難場所であると共に、野菜・花作りを行ったり、日光浴・外気浴・散歩ができたりと気分転換の場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引継ぎの際に法人の理念と潮の香目標を職員全員で唱和しており、共有と実践につなげている。	法人の理念と潮の香の目標を、毎朝引継ぎ時に復唱して職員全員で共有している。ミーティング時には「地域社会で普通の生活」ができるよう、その人らしさを大切にして実践しているかなど、話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練、道普、ごみ集積場掃除ほか、常会や各種地域行事に参加して地域の一員として交流している。また、地域の商店を使うなどの配慮をしている。	事業所は町内会に加入しており、職員が地域の人でもあるので、町内の総会や各種行事に参加して地域の一員として交流している。地域住民から野菜の差し入れや施設への相談や見学の依頼もある。高齢者・障がい者福祉施設であるので、大学生の泊まり込みの実習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前は事業所主催で夏祭りを行っていた。今後は地域の夏祭りに合同で開催する予定にしていたが、中止になった。今後も地域に貢献していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で外部の方を交えた運営推進会議は行えていないが、1回/2月のペースで潮の香内で運営推進会議を行い、コロナ研修や虐待、身体拘束の防止の研修を行い、委員の方には後日、報告書を配布している。	コロナ禍のため職員で2か月に1回会議を行っている。コロナ感染予防や虐待・身体拘束防止等について研修を行い、運営推進会議のメンバーへ報告書を手渡して意見を聞いている。	コロナ禍が終息し、会議を開催することで事業所の状況報告やメンバーとの情報交換ができるようになることを願っています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新時、区分変更時は、市役所を訪問している。また、必要時は尾道市役所の担当者に問い合わせをしたり、訪問をして助言をいただいている。	介護保険の更新・申請時には市役所を訪問している。コロナワクチン接種のことなど必要時には連絡・相談をしている。地域包括へは運営推進会議の報告を持参し、入居に関する相談や申し込みなどを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議のタイミングで身体拘束適正化委員会会議を行い、職員間で話し合っている。研修会を行った際には全員がレポートを提出して理解を深め、身体拘束をしないケアを心がけている。	2か月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。動画で研修を行い、職員がレポートを提出して理解を深めている。スピーチロックやグレーな事例についても話し合っている。外に出たい人は他部署の職員の協力を得ながら見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修(オンライン)や潮の香会議の中で虐待防止について学習したり、日々のケアの振り返りを行い虐待につながるケアが無いかが皆で意見交換を行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば積極的に参加するように努めている。研修後は、伝達研修を行い、職員全員が認識、活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間を取って、契約書と重要事項説明書等の説明を行っている、不安や、質問等には丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響で家族交流会や面会等を自粛している為、ご家族と直接お話しする機会が減っているが、いつでも管理者とLine交換ができ、対応している。	家族とは面会時に話したり、電話やLineで連絡を取るなどしている。散歩をさせてほしい思いや、利用者が家に帰りたい要望に、1階の自販機まで行く・テラスを散歩する・会話するなど対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の潮の香会議には総合施設長とセンター長(管理者)も出席しており、職員が遠慮なく意見交換を行い、提案や要望を直接言える機会があり、反映することが出来ている。	毎月の「潮の香会議」や年2回の個人面談で職員の意見や要望を聞いている。トイレ内の手洗い台を除去して介助スペースを広げたり、職員の個人ロッカーを設置するなど反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回の潮の香会議には総合施設長とセンター長(管理者)も出席し、職員の思いを聞き、実態把握に努め、働きやすい環境整備に務めている。昇格の機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は全員回覧し、参加を勧め、希望者には参加できるようにシフトを組んでいる。研修後は伝達研修を行い、職員のケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で今はできていないが、近隣の福祉事業者の集まりシーポートに加入し、職員との交流、研修会企画等に参加して、運営に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で、本人の言葉やしぐさ、行動などを観察して気づきを共有し、本人の困りごとの解決に努め、要望には柔軟に対応し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を、じっくりと伺い求められていることに柔軟に対応しており、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とよく話し合い、ニーズを把握して支援できるサービスと出来ない事を見極めて、説明を行い、必要であれば他事業所と連携して対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを出来る形で継続していく。自分の事だけでなく、他の人のためにすることで、本人の喜びにつなげ良い関係が気づけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会を自粛しており、直接会える機会が減っているが、動画を送ったり、ビデオ通話でお話する等、良い関係が継続できるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会を自粛しており、直接会える機会が減っているが、友人、知人とのふれあいを大切にして、ホームへまた来たいと思っていただけるような、おもてなしを心掛けている。	コロナ禍のため、家族・親戚・友人などと密着の面会やビデオ通話をしている。携帯で話をする人・年賀状が届く人もいる。散髪や近くのスーパーへ買い物に出かけるなどして、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、パイプ役を務めながら、皆さんが、笑顔で生活できるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や思いを日々の支援や会話の中で感じ取り、把握に努めている。また、連絡帳を利用して、職員間で情報を共有して本人に寄り添った支援に努めている。	日常生活の中で利用者の表情や仕草を見て声をかけ、話の中から思いや意向をくみ取っている。職員は連絡帳で思いを共有している。食事のアンケートで好き嫌いを把握している。飲み物・おやつ・衣服など自己決定できるよう声掛けを工夫して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から話を聞いている。必要に応じてこれまでに利用していた事業所から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活支援の中で、状態の変化や気づき等を申し送りや連絡帳で細目に情報交換を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で意見交換と、本人や家族からの要望を持ち寄り、現状に則した介護計画を作成している。	日頃から利用者の状態把握を行い、家族の思いを聞き、職員の意見を出し合って介護計画を作成している。モニタリングと見直しは、6カ月を目安に行っている。状態変化時には家族と話し合って計画変更し、支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別にケース記録を作成し、薬の変更時などは別に個別記録を記入している。毎日の申し送りや、会議などで情報を共有して実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の事業所との連携、応援を受けて、柔軟な支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響前は地域の祭りや行事に参加していた。また、地域の理容院へ行ったり、ホーム以外の地域の人との会話を楽しむことができるように支援していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を第一に入居前の主治医を継続したり、新たなかかりつけ医の下で事業所との関係を築き適切な医療を受けられるように支援している。	利用者・家族の希望のかかりつけ医としている。利用者の状況に応じて往診・受診の対応をしている。受診は職員が同行している。緊急時は主治医と連絡を取り適切な医療が受けられるようにしている。歯科医も月1回の往診に加え必要時受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックや気づきは、看護師、管理者、ケアマネージャに相談し適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は地域連携室や病棟と連携をとり、定期的な訪問を心掛け、担当者とも直接話し、関係づくりを行っている。また、カンファレンスに出席して情報交換や相談ができるように関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、当ホームは、医師、看護師が常駐ではないことを説明させていただいている。重度化や終末期のケアについては定期的に意思確認を行い、方針変更も視野に入れてかかりつけ医との協力体制に取り組んでおり、本人と家族に寄り添った支援を心掛けている。	入所時に、事業所で迎える終末期について説明し、希望を確認している。状態に変化があった時には主治医から説明があるとともに、家族・職員と話し合い、協力して穏やかな終末を迎えられるように支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事前にマニュアルを作り、会議で確認し合っている。また、法人内で消防による心肺蘇生の研修に参加してAEDの操作の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回の避難訓練を実施、地域での災害訓練に参加、運営推進会議では、協力体制を築くため働きかけを続けている。	法人内で年2回、昼夜想定避難訓練を実施している。加えて地域の避難訓練にも利用者と共に参加し協力関係を築いている。消防署立ち合いも1回あり、アドバイスに基づいて改善をしている。地域の人の避難も考慮に入れた物品と量を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持ち、職員からも利用者間でも、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけと対応に努めている。	法人内でプライバシーや権利擁護に関する研修を行っている。排泄や入浴時などプライバシーや羞恥心に配慮した言葉かけや対応に努めている。トイレのバット入りかごの名前をイニシャル表記にしたが、本人の希望で漢字名に戻すなど一人ひとりの尊重に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の希望を叶える。入浴や行事の参加は本人の希望を優先している。おやつや飲み物は複数の選択肢から自分で選べるように自己決定を日常的に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな決まりはあるが、それにはとらわれず、一人一人のペースに合わせて個別対応が出来るように、柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の理容院で散髪をして衛生的な身だしなみの支援をしている。また、個人の好みを大切にしている。希望があれば一緒に買い物に行き、自分で洋服を選べるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を受けたり、定期的に嗜好調査を行っている。旬の食材を使った料理を提供している。豆の皮むきなどを手伝ってもらうこともある。	事業所のテラスで収穫した野菜も利用して、旬の食材を調理した食事を、利用者の嗜好や食事形態に合わせて提供している。行事食や誕生会など工夫した食事が利用者の楽しみになっている。利用者は野菜の下ごしらえなどできることを一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量の記録を取り、一人ひとりの状態、嗜好に合わせて、食材、食事形態、量、食器などを調整している。必要に応じて見守りや介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアの言葉かけを行い必要な方には、介助を行っている。定期的に歯科の往診ががあり、口腔ケアを受けたり、必要に応じて治療を受けられる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンによる言葉かけを行っている。自立されている方にも、見守りパット交換の言葉かけ、排便の確認を行っている。	排泄間隔やタイミングを見計らって、工夫をした言葉かけを行うことでほとんどの人がトイレで排泄している。身体機能に応じて一部介助や見守りを行っている。日常的に体操や散歩を行うことで身体機能を維持し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫と水分補給に気を配っており、排便の記録を取り、便秘にならない様に本人、ご家族、主治医と相談しながら。服薬調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は1回/3日のペースで入浴するが、本人の希望や状況に応じて柔軟に入浴を支援している。	本人の希望や状況に応じて日時や人を変えるなど柔軟に対応している。三方から介助しほとんどの人が浴槽につかっている。必要に応じて施設内の機械浴を使うこともある。入浴剤の使用や会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室と寝具の清潔に配慮しており、いつでも自由に休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬リストを作成して、薬の効果や注意点用法などの確認を行っている。薬の調整が必要な方にはチェック表を記入する等、個別に支援している。薬の変更時には、連絡帳や申し送りで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことや趣味が継続できるように支援している。また、テラスを散歩する等、本人の希望を伺って、柔軟に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	即、希望に添える日も、そうでない日もあがるが、出来るだけ希望に添えるように努めている。時には他の事業者や家族の支援を受けて支援している。	日常的に事業所の周辺を散歩したり、テラスで野菜や花の世話、日光浴、外気浴をしている。法人の他事業所や近くのスーパーへ買い物に出かけている。花見ドライブに行き、今年は島内のパークに家族とともに出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望で、お金を所持する方がいます。状況に応じて管理を支援したり、買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族からの要望があれば、電話やビデオ通話ができるように支援している。手紙や荷物が届けば、お渡しし、荷物が届いたことのお礼の電話を一緒にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、みんなで楽しむ団らんの場として活用している。壁の飾りや、生花などで、季節感が味わえるよう配慮している。また、自分の作品が展示してあるスペースがあり、発表の場にもなっている	家庭的な雰囲気のリビングで、壁には作成した作品を飾り季節を感じられるようにしている。窓からは桜の花見ができる。中央にテーブルを配置し会話やTV鑑賞、作業等を行っている。さわやかさやリラックス効果のあるアロマを使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下端の小空間、リビングの大空間、テラスと、それぞれに椅子、ベンチ等を配し、自由に集い、語る場がある。希望があれば一人になれるようにテーブルを配置しており、柔軟な対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご家族との写真や使い慣れたものを、そのまま利用しながら、居心地の良い居室づくりを行っている。また、本人の状況に応じて家具の配置を工夫している。	居室は使い慣れた品々やテレビが持ちこまれ、家族の写真や習字などの作品を飾っている。利用者の状況に応じて家具の配置を工夫し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「自分のできること」が継続できるように、リビング内の椅子、テーブルの位置を工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	コロナ禍で運営推進会議を事業所内の職員で行い、外部の委員さんには後日、報告書をお届けしており、情報交換の機会が減っていた。	感染症対策を取りながら、外部の委員さんにも会議に出席していただく。	外部評価の結果を運営推進会議で公表してもらう。	3ヶ月
				事業所内だけではなく、地域の行事(夏祭り等)に利用者、ご家族、運営推進委員さん、職員が参加して交流を図る。	6か月
2	19 20	面会の自粛や家族交流会が行えなかった為、家族との触れ合い、他の利用者さん家族との交流の場が限られていた。	感染症対策を取りながら、家族との触れ合いを、コロナ感染症以前の状態に戻していく。	本人、家族の了解を得て、コロナワクチン接種を行う。(利用者、職員)	3か月
				面会時には、コロナ禍同様に体温、体調のチェックを行う。	6か月
3				以前は6月には潮の香で給食の試食会をご家族、運営推進委員さんを交えて行っていたが、狭い空間に大勢の人が集うのを避けるため、今回は出席できるご家族と共に外部の会場で昼食会を行い交流する。	6か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()